

在宅支援サービス強化

須賀川の春日
リハビリ病院 新施設オープン

南東北グループの医療法人社団三成会が須賀川市南上町の南東北春日リハビリ



南東北春日在宅センターのオープンを記念して行われたテープカット

テーション病院の西側に建設した「南東北春日在宅センター」は4月2日(月)にオープンしました。

同センターは、高齢者が自宅で安心して過ごせるための在宅支援サービスが集まった施設で、木造三階建て(延べ床面積約1310㎡)。1階は通所リハビリテーション(定員40人)、2階は同病院で初めてのデイサービス(定員40人)、3階は須賀川市初の訪問リハビリテーション、訪問看護ステーションとヘルパーステーション、居宅介護支援事業所などとなっています。



県産木材を活用して建てられた南東北春日在宅センター

す。福島県産木材活用の補助制度(CLT建築物普及促進支援事業)の認可を受け建設。木材がふんだんに使われ、内外装とも温かみを感じさせます。



施設内に設けられた浴場

高次脳機能障害に理解を

脳外傷友の会
うつくしま10周年記念講演

県内の高次脳機能障害の患者と家族でつくる脳外傷友の会がうつくしまの発足10周年を記念した講演会は3月25日(日)、郡山市の総合南東北病院北棟NABEホールで行われました。

遠藤良一会長が同団体の10年の歩みを報告した後、はしもとクリニック経営(東京都世田谷区)院長の橋本圭司医師が「高次脳機能障害との上手な付き合い方」と題して講演しました。

NPO法人高次脳機能障害支援ネットワーク理事長も務める橋本医師は、高次脳機能

進支援事業)の認可を受け建設。木材がふんだんに使われ、内外装とも温かみを感じさせます。

3月27日(火)午前10時から現地で開催式が行われました。関係者、来賓ら約70人が出席しました。玄関前でテープカットが行われ、渡邊一夫理事長(南東北グループ総長)、笹原賢司福島県中保健福祉事務所長、山口和之参議院議員、佐藤暁二須賀川市議会議

長、渡邊達雄須賀川商工会議所会頭、後藤恒夫南東北春日リハビリテーション病院院長らがテープにハサミを入れました。

引き続き施設2階で落成祝賀会が開かれました。渡邊理事長はいさつで「超高齢社会を迎えてリハビリはますます重要になった。在宅医療、在宅介護、在宅リハビリを連携して行い、地域の期待に応えたい」と語りました。

障害の原因、特徴、症状と対応などについて分かりやすく説明しました。会員ら100人が出席し、熱心に耳を傾けていました。講演



高次脳機能障害について講演する橋本医師

後は質疑応答もありました。

高次脳機能障害とは、交通事故や転倒によって頭を強く打ったり、脳梗塞や脳出血により脳に損傷を受け記憶や行為などの脳の働きに障害が現れる病状。外見上障害があることが分かりにくいいため周囲の理解を得ることが難しいと言われています。学校や職場など社会全体での正しい理解が求められています。総合南東北病院は県内の高次脳機能障害支援拠点機関に指定されています。詳しくは同病院内の福島県高次脳機能障害がい支援室 ☎024-934-5680 (相談専用)へ。